

大学コンソーシアム京都 産学連携プログラム
プロジェクト実践コース プロジェクト報告書
大槻シール印刷

「Rediscovery Label おもしろい新商品シール開発」

2024年11月 日提出

岩倉真衣 橘亮太 中田鈴子

1. はじめに

私たちは、「まちのシール屋さん」として社会貢献への様々な取り組みをしていらっしゃる「株式会社大槻シール印刷」にて、プロジェクト企画実践コースの実習生として活動した。

「Rediscovery Label おもしろい新商品シール開発」というテーマの下、チームメンバー3人で、シール印刷を用いた新商品の開発に携わった。企画開発から製品の完成まで担当し、試行錯誤を繰り返しながら、日々アイデア出しを懸命に行った。

本稿では、新商品開発に至るまでの過程と、新商品シールのお披露目の場となった中信ビジネスフェアでの活動に関して述べていく。

2. 自習先の企業と私たち

実習先である大槻シール印刷様は「確かな技術を真心込めて」をもとに日々お仕事をなさっている会社であり、従業員の方も親切で、とても温かい会社である。初めてお話を伺った日に、「あるだけで社会貢献となる会社」を目指しているとおっしゃっており、障がいを持った方の雇用にも積極的に取り組んでいる。我々実際に工場訪問を行った際も、気さくに話しかけていただき、中小企業ならではのアットホームな雰囲気を感じることができた。

今回のプロジェクトを実施するに際し、受け入れ先が抱えている課題として挙げられたのは「若者の中小企業への就職が減っていることに関して、中小企業の良さや自由度、そして厳しさを知ってもらう」ということだった。

3. プロジェクトへ向けて

グループ内で「Rediscovery Label おもしろい新商品シール開発」に関して具体的にどのような方針でプロジェクトを進めていくかを話し合い、「あっと驚くシール開発」をはじめとし様々な案を出し合った結果、最終的に「新たな使い方ができるシール」を方針とし進めていくこととなった。詳細としては、「自分好みに切り取って貼ることのできるシール」とした。プロジェクト自体の大まかな内容はグループで製作したシール商品を秋に開催される中信ビジネスフェアにて発表するという流れで、我々はそれに向かっての工程を自らで決定し進めなければならなかった。

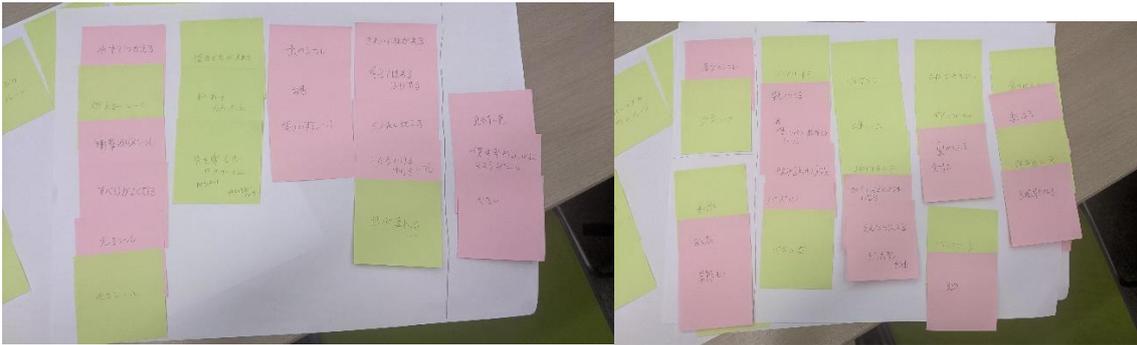
4. 経過報告

7月上旬、工場見学へ出向いた。3人全員集まることができず、各自での訪問となった。また後日、各自で業務体験を行った。以下の写真が工場の様子である。

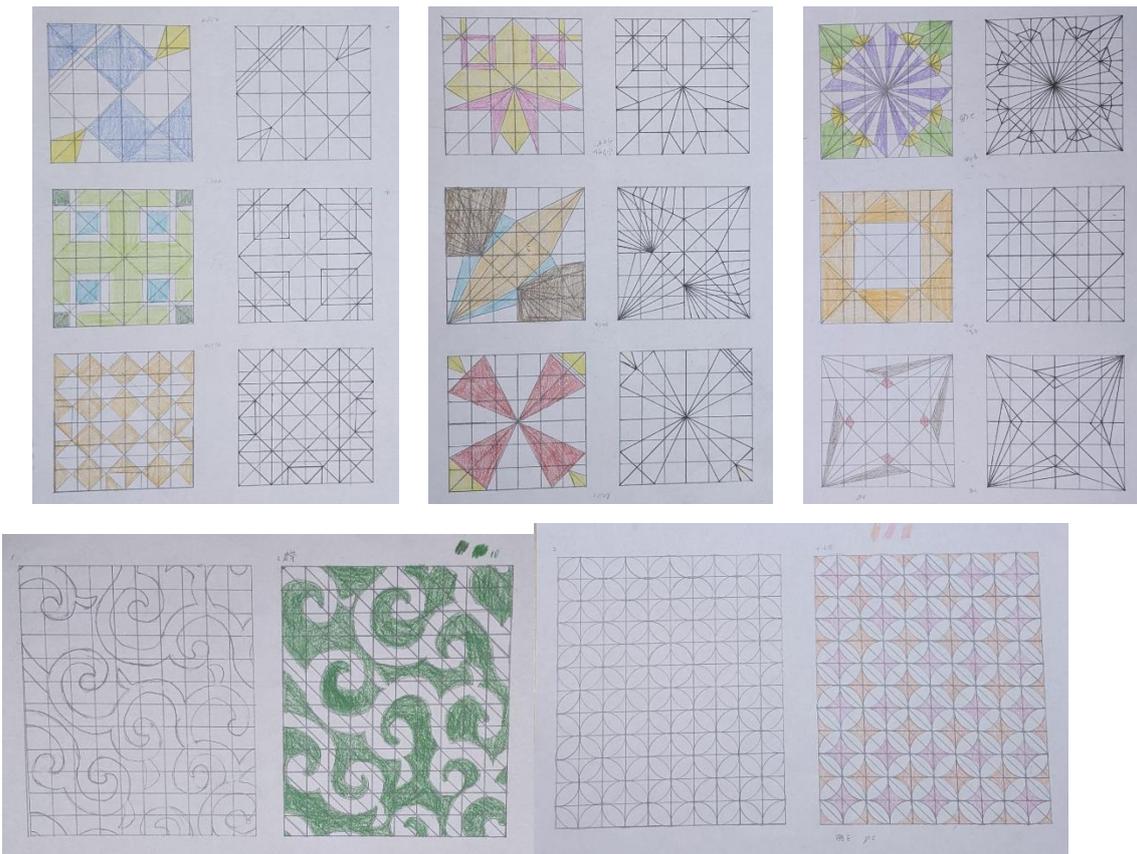


同時期にプロジェクト企画実践コース講義内にて、シールに関するアイデアを持ち寄った。

以下の写真がマインドマップ風にアイデア出した様子である。



そして7月下旬に京都女子大学、プロジェクト企画実践コースメンバー内にて、シールに関するアンケートを実施した。Google アンケートを使用し、シールを使用する頻度や、どんなシールが欲しいか、最近見かけたおもしろいシールなどを設問とした。そのアンケート結果を参考に8月上旬にどのようなシールを作るのか話し合いをした。以下の写真が持ち寄った案である。



そして、積み木のように様々な形に貼れるようにするため、縦、横、斜めに切り込みを入れることが決定した。8月下旬に Zoom 会議にてデザインを出し合い、9月上旬には各自ブラッシュ

ユアアップしたデザインを持ち寄った。話し合いの結果、和柄や折り紙、オリジナルのデザイン等様々な案の中から和柄に決定した。商品名は「花やかシール」とし、ロゴマークも同時に作成した。デザインが決定した後、大槻シール印刷デザイナー様と数回話し合いを重ね、具体的な形や色を決定した。以下の写真が決定した案である。



新商品シールを開発するにあたって、大槻シール印刷様に提案させていただくために以下の提案書を作成した。

大学コンソーシアム 大槻シール印刷実習生
 [商品名]
花やかシール
 [コンセプト]
 「ノートを花やかに」 + 「ノートの整理整頓に」

○ 商品名

- 理由
シールを貼ることによって、カラフルになっていくのが花を咲かせていくように感じたこと。コンセプトが先に決まっていたので使っていただく方を引く方がよいのではと思ったから。

○ コンセプト

1) 「ノートを花やかに」

- 理由
電子化が進み、ノートを書く機会が少なくなっていますが、書くとなったときに少しでも楽しみながら書いてもらいたいと考えました。また、「華やか」ではなく「花やか」をしたのは「華やか」には、豪華で目立つ雰囲気表現の際に使われ、「花やか」には色鮮やかで楽しい様子を表現する際に使われることから、「花やか」の方がイメージが合うと思いをこらえました。
- 使い方
好きな形に切り抜いて、ノートを飾ることや必要箇所を目立たせることができます。
- 効果
ノートには黒色や赤色が多く使われるので、他の色を好きな形に貼れることでノートが明るくなり、見返す機会が増えるのではと思いました。

2) 「ノートの整理整頓に」

- 理由
ノートを書きながら目立たせたいところに貼ることができることや書き書き終わった後にも貼ることができるので、もう一度振り返ることが楽しくなるのではと考えました。
- 使い方
三角や四角などに切り抜き、切り抜いたもので色分けをして優先順位を可視化できるとや大事なることを「かざっこ」のように囲むことができます。
- 効果
ノートをとっているときに目立たせたいところにシールを貼れること。また、どんな風にしたら見やすくなるように貼れるかを考えながら書くこと、自然と整理されているノートができるようになるのではないかと考えました。また、振り返りながら回をつけることもできるので、「あの時あのシールを貼ったな」というように覚えやすくなるのではと思いました。

○ 実例

- ノートのメモ欄のかざっこ
- 題目の代わり
- メッセージカードの角



o 商品構想

1. 作るきっかけ

大学コンソーシアムで実施されている大槻シール印刷様のプロジェクト企画に参加しています。私たちはシールを作り企画し、「新たな使い方のできるシールを開発する」ことを目標として掲げました。

2. デザイン決め

初めにシールを使用する頻度のアンケートをとり、集計結果と私たち個人で考えてきたアイデアを基に、「正方形と斜めに切り込み線を入れ、好きな形に切ることもできるものに決定しました」。次に会った時に個人で描いてきたデザイン案を見せ合い自分たちの中で3つを決めました。

◆ その他デザイン



提案書には「ノート在花やかに」「ノートの整理整頓に」というコンセプトを書いた。「ノート在花やかに」は、電子化が進むため、ノートをとる機会が少なくなってきている中で、ノートをとるとなったときに少しでも楽しみながら書いてもらえたらと考えた。また、「ノートの整理整頓に」は、ノートを書きながら目立たせたい場所に貼ることができることや書き終わった後にも貼ることができるので、振り返りの時に楽しくなるのではと考えた。デザイナー様にイラストレーターにデータに移していただき、丁寧に教えていただきながらカラーバリエーションを作らせていただいた。そして、24種類のカラーバリエーションが完成した。その中から2色で1つのペアになるように選び3ペア完成した。それぞれ「なつ」「あき」「かんろ」と四季から名前をとったものと、二十四節季から名前を借りた。(5ページ決定案左から「なつ」「あき」「かんろ」)紙質については上質というあまり光沢をもたないものを選択した。そして中信ビジネスフェアに参加させていただくにあたって、展示用のポスターやアンケートを制作した。

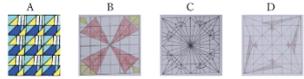
大槻シール印刷様へ提示した提案書を中信ビジネスフェアでも使用した。この提案書をもとにプレゼンし、アンケート回答をお願いした。アンケートには、「商品化できるか」「どのくらい

の値段なら買うのか」「大きさは良いか」「どのような場所に使いたいか」などシールに関するものを設問としている。以下が作成したアンケートである。

大学コンソーシアム 大観シール印刷実習生

アンケートのお願い

この度皆様のご協力の下、花やかシールを完成させたいと思っています。つきましては、この商品を更に改良すべく皆様の率直な意見をいただきたいと考えております。些細なことでも構いません。どうかご回答いただけますと幸いです。

- 商品化できると思いますか。そう答えた理由を教えてください。
 できない ・ ややできない ・ ややできる ・ できる
 理由：
- 1で「できる」「ややできる」と回答された方にお聞きします。いくらまでなら買いたいと思いますか。
- どんな絵柄を使いたいか下のA～Dより1つ選んでください。

- この商品があったとき、どのような場面で使いますか。
- サイズ感はいかが。そう答えた理由を教えてください。
 悪い ・ やや悪い ・ やや良い ・ 良い
 理由：
- ポスターの他のカラーバリエーションの中でペアにしたいならどれですか。
 例) ② と ③
 と
- その他ご意見があればよろしくお願いたします。

試作品とアンケートが準備できた上で、10月9日、10日に中信ビジネスフェアに参加した。

その結果、20人に回答してもらった。また、9月30日から10月20日の間に実習生3人それぞれの大学でもアンケートを実施した。3大学で34人に回答してもらった。

5. アンケート結果

中信ビジネスフェアではお試しでシールを貼れるスペースを用意し、実際にシールの使用感を体験いただくことで、使い心地の面で意見をいただくことができた。実際に会社を経営している方や、企業で働かれている方、教授や友達にアンケートを行ったことで、幅広い視点からの商品化の可能性を見出すことができた。以下グラフが各自大学内、中信ビジネス

フェアにて実施したアンケートの結果である。

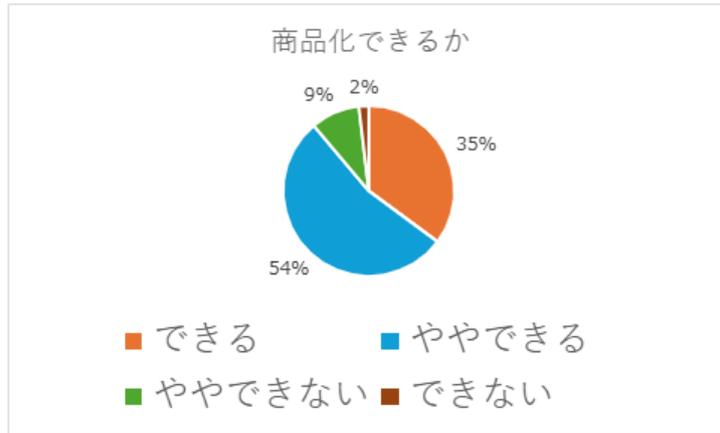


表 1

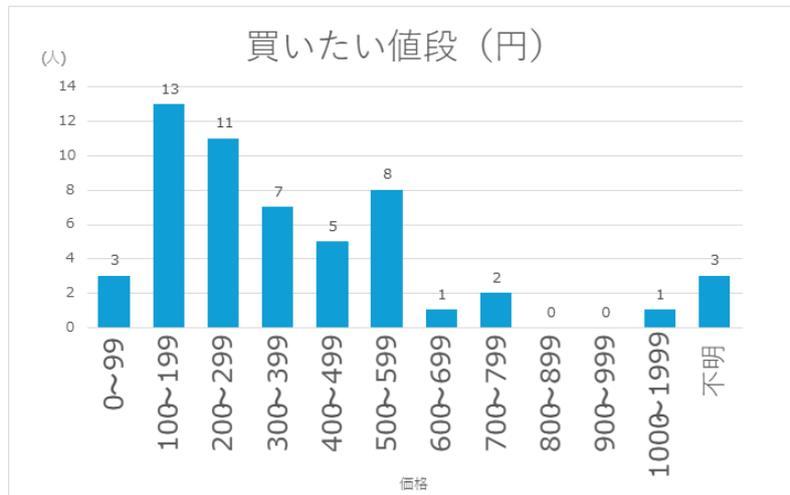


表 2

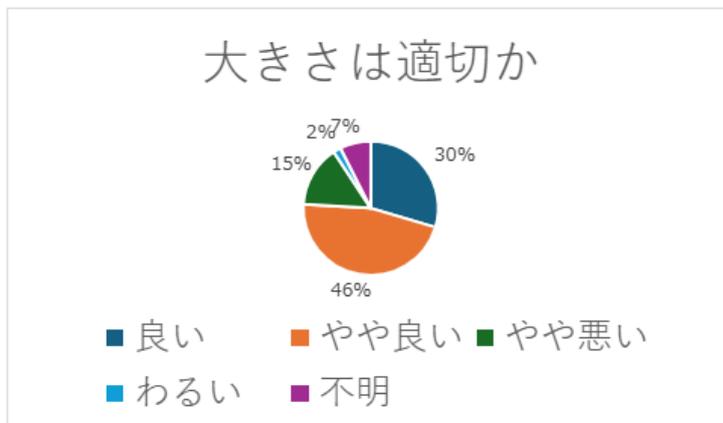
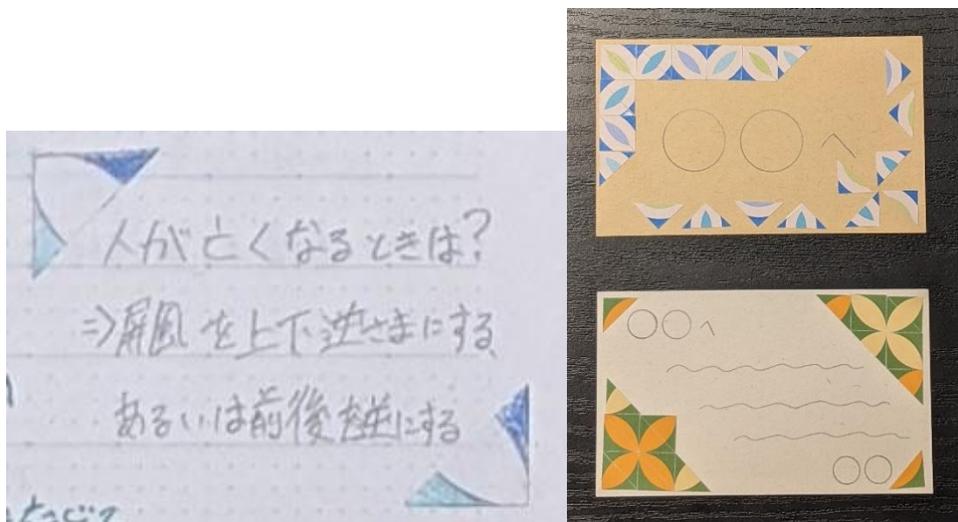


表 3

表 1 より、商品化ができるか否かといった質問には、約 9 割の方が商品化できる、やや商品化できるとの回答を得ることができた。9 割の方が商品化できると答えた一方で、約 1 割の方は商品化が現実的ではないという意見があった。理由としては、「小さすぎて貼りづらい」「パッと見た時にどう使えばいいのか分かりづらい」という意見があった。次に表 2 より、いくらであれば買いたいと思うかという設問では、100 円～199 円の価格帯で最も多く、13 人であった。この回答の背景として、100 円均一などで安く高品質のシールが多数展開されていることが影響しているのではないかと考える。次に、シールの使用用途である。アンケートに回答を一部抜粋して下記に紹介する。

- ・メッセージカードに貼る
- ・名刺
- ・ギフト用の包装
- ・ノートのデコレーション
- ・子ども用に（貼り絵など）

以下写真がノート整理、メッセージカードに貼る使用例である。



6. 成果報告

我々は6月からの約半年間の間、株式会社大槻シール印刷様にて実習生として活動した。

「Rediscovery Label おもしろい新商品シール開発」のテーマの下、学生3人で知恵を出し合いながら、「花やかシール」という商品を開発した。開発したシールを客観的に見てどうなのかを知るべくアンケートを行い、商品化の可能性を可視化することができたと同時に課題も生まれた。我々初めて商品の企画を担当し、一から商品を作り上げ、消費者の関心を引く商品を作り上げるという、ものづくりの難しさを目の当たりにし、諦めかけたことあった。しかし、どうすれば消費者の興味を引くことができるか、話し合いやアイデアを出し合うことにやりがいを感じ、最後のアンケートで商品化の兆しが見えた時には非常に達成感を感じた。しかし、商品化するとすればネットのみであり、売れるかと言われるとそうとは言えず、コスト、時間的にも商品化は難しかった。結果的には商品化に至ることはできなかったが、多くのことを学ぶことができた。何より、企画からデザイン、試作品を作るまでの幅広い業務を体験することができ、社員さん同士の距離が近くアットホームな空間で働きやすい職場であるなど、中小企業の良さを存分に知ることができた。約半年間という長いようですごく短い間だったが、これまでにない貴重な経験を積むことができた。ここで得た経験を今後は我々が社会に還元できるよう、尽力したいと感じた。商品化はできずとも、中信ビジネスフェアに向けて試作品の完成までを支えてくださった大学コンソーシアム京都の方々、教授の方々、他のプロジェクトメンバー、アンケートにご協力いただいた方、株式会社大槻シール印刷様、そして共に活動したメンバーに深く感謝申し上げます。